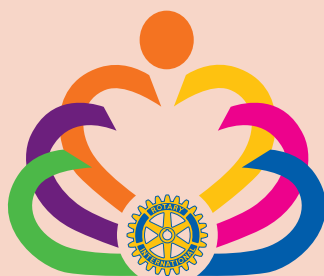


2011—2012 ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

8



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー第2510地区
2011～2012年度 ガバナー 熊澤隆樹

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F
TEL (011)207-2510 FAX (011)207-2512
e-mail : rid2510@nifty.com



2011-2012年度国際ロータリーテーマ

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」

Reach Within to Embrace Humanity



国際ロータリー第2510地区2011-2012年度 地区目標

- I ロータリーの活動を担う新しい会員を増やすこと
- II クラブは(全会員参加型の)新しい奉仕活動を年度内に一つ行うこと
- III まわりの人にロータリーを巧みに語り伝えること

CONTENTS | 目次

ガバナーメッセージ	1
第3回日台ロータリー親善会議	2
ガバナー補佐退任ご挨拶	3
地区委員長退任ご挨拶	6
第1グループIM報告	16
タイ洪水義援金支援金報告	17
日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会	18
ローターアクト第39回地区協議会	19
長万部RC・報告長万部町民花見会/ 2013年規定審議会立法案第305号(地区大会決議第12号)の撤回について	20
米山寄付、ロータリー財団寄付	21
新会員のご紹介/訃報	22
出席率・会員数(5月)	23
出席率・会員数(6月)	24



『年度を振り返ってみて!』

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー

熊澤隆樹

(小樽RC)

今、すでに細川年度に入り、地区内のクラブでも、田中作次R I会長のテーマの許で活動が始まっております。昨年12月のガバナー補佐会議、1月の国際協議会、3月のP E T S、4月の地区協議会を経て新しい年度を迎えておるわけです。私は振り返ってみると国際ロータリーは実に良く組織化された奉仕団体であるとつくづく感心しております。

特に、その研修システムは年々進化を遂げており、最近取り上げられているR L I (ロータリー・リーダーシップ研究会)は、クラブ底辺から一人一人のロータリアンが、本当のロータリーを理解してもらう研修組織でこれからの活動が期待されております。

一方、私達ガバナーに対しては、**ガバナー会**という34地区のガバナーの親睦組織があり、年2回の会合がもたれておりますが、2008～2009年度ガバナー会が、**ガバナー協議会**を設立して、これが日本の各地区内で発生した諸問題について、日本のR I理事と一緒にあって対処して答申する目的として作られておりました。その2010～2011年度ガバナー会で、3年に亘って拘束する震災の奉仕プロジェクトが提案されましたが、私の年度で否決されて、各地区の判断に任されるという事態が起きてしまいました。

ところが、それ以前2009～2010年度、渡邊年度でも同じように東ヶ崎記念会館(東ヶ崎氏は日本人初めてのR I会長)設立への寄付を会員一人あたり3年間で3千円を取り決めたが、大震災のため各地区への衆知がされずに私の年度になって浮上したために、渡邊PG名で、各クラブへのお知らせすることに止めておりました。そのため思うように集めることが出来なかつたので、地区として幾ばくかの支援を考えておるところです。

さて、私の年度は、東日本大震災直後の3月12日にP E T S (会長エレクト研修セミナー)の開催ということが起きてしまいました。しかし、各クラブの会長エレクトさんのロータリーに対する熱い思いが、わずか数クラブの不参加ということで無事開催できました。お陰様で私も皆様の思いを受け止めて無事ガバナーの任を果たすことができました。

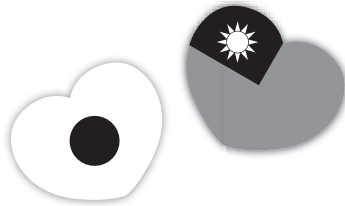
また、エレクトの時、11月の東京でのロータリー研究会を終えた翌朝、朝食時に囚らずも同席した田中作次R I会長ノミニーに30分ほど、お話を聞く機会に恵まれました。その時「クラブ訪問ではそのクラブの良いところだけを見て、悪いところは指摘しては駄目ですよ」とアドバイスをいただきました。それが、ガバナー月信7月号で紹介した、ポール・ハリスの言葉と一致しており、田中作次R I会長の言葉を守って公式訪問に臨んだことで、各クラブの会員の活動のすばらしさを目にすることができて、本当に幸せでした。

私をサポートして下さった皆様に感謝を申し上げて、つたない文章を終えます。ありがとうございました。合掌!!



第3回 日台ロータリー親善会議

(東日本大震災に対して世界一速く、世界一多額の義捐金)



(公財)ロータリー米山記念奨学会

評議員 **塚原房樹**

(札幌東RC・PG)

日本・台湾ロータリー親善会議は、国際ロータリーの主旨に基づき、両国の親善と相互の理解を深め、両国の発展と世界平和に貢献することを目的に発足しました。第1回(2008年5月、東京)、第2回(2009年10月、台湾・日月潭)に引き続き、第3回を京都グランビアホテルにて去る6月1日、台湾から240名、日本から417名のロータリアンとご家族をお迎えし盛大に開催されました。両国歌斉唱の後、前川昭一日台ロータリー親善会議総裁の歓迎の辞に続き台日国際扶輪親善会議理事長、林士珍氏の祝辞がありました。

今回の会議の主目的は、昨年の東日本大震災に対していち早く世界一多額の資金支援をいただきました台湾のロータリアンの温かい、そして厚い友情に心からの敬意とお礼を申し上げることでした。

義捐金の総額は実に6億1449万円でありました。そのうちから日台ロータリー親善会議あてに送られた義捐金は1億4137万円、そして「ロータリー希望の風奨学金」(18歳以上の震災遺児・大学生、短大生、専門学校生支援協議会)にご寄附いただいた支援金は1億2343万円でした。

改めて日本のロータリアンとして心よりの感謝を申し上げたいと思います。

続いて両国の近況報告があり、特に台湾ロータリーからは詳細なデータが示されました。台湾は7地区に分かれています。特に会員増強については著しい成果が報告されました。過去2年間でクラブ数が42増え、会員も2400人増え拡大増強に成功しています。ちなみに現在の会員数は7地区合計2万2050人とのことです。

また記念講演は千玄室R1元理事による「人間の絆」と題したもので、今回の親善会議にふさわしいものでした。

この京都大会は日台両国のロータリアンの絆をさらに深めた素晴らしい大会でした。私にとって思いがけない収穫は、2005年、アナハイムの国際協議会でともに机を並べた台湾出身の米山奨学生で、初めて台湾の第3490地区のガバナーとなったDr.許国文氏と久しぶりに旧交を温めることができたことでした。日本と台湾両国は、お互いが心情的に友好的であり、極めて強い絆で結ばれています。今後も日台親善会議を通じてますます友好の輪が広がり、より日台間の親善が一層深まることを願います。

今回の京都会議には当地区からは1名のみでの参加でした。第4回日台親善会議は2014年3月に台北で開催されます。この有意義な日台親善会議に次回は当地区より、ぜひ多数のロータリアンの出席を望みます。



ガバナー補佐退任ご挨拶



第1グループ担当ガバナー補佐
山田 圭二
(深川RC)

未知の体験を終えて

2010年12月4日、第1回のガバナー補佐会議が開催されてから1年7カ月、様々な研修を受け、熊澤ガバナーをはじめ多くの方々のご指導を戴き、地区の空気に触れ、韓国第3700地区の地区大会に参加し、グループ内の各クラブを訪問し、多くの皆様方の寛容と友情に助けられて、私にとっては新しい世界を学び、どうにか補佐の任務を終えることができました。

特に今年度は3・11の国難と言うべき東日本大震災直後の年度で、地区もいち早く大震災救援奉仕プロジェクト委員会を立ち上げ、支援事業に精力的に取り組んだ特異な年度でありました。

かつて富山惟夫ガバナーを輩出した歴史と伝統のある留萌クラブは、創立50周年記念事業を中止し120万円を震災救援支援金として拠出し、各クラブもそれぞれ精一杯の救援奉仕をされ奉仕の真を發揮されました。

第1グループの留萌クラブは会員研修委員会を設置して、ロータリーを学ぶ姿勢のクラブ運営と充実した例会を行い、羽幌クラブは月2回の夜間例会で会員相互の親密な親交を図っており、妹背牛クラブは少人数で家庭的雰囲気の中、全員参加の奉仕活動をしています。

深川クラブもかつて河野通正ガバナーを輩出した歴史と伝統のあるバランスの取れたクラブで今年度6人の新会員を迎えました。ホームクラブとして支えて戴いた深川クラブの成田雅敏会長、素晴らしいIMを開催して戴いた大西道祥実委員長・澁谷賢治幹事に改めて感謝します。

補佐の任は、ロータリーの理念と活動の凄さを実感した貴重な時間でした。

熊澤ガバナーと地区幹事の皆さん、第1グループの会長・幹事さんはじめ会員の皆さん、有難うございました。



第2グループ担当ガバナー補佐
滝 勝美
(芦別RC)

明日に繋げたい想いで

2010年12月4日、小樽市において開催されたガバナー補佐会議に参加できるかどうか？で難題多く、補佐を返上するかまで議論がある中、心配の一年半を経て、熊澤ガバナーの思いをどのくらい各クラブに伝えることができたか判りませんが、その任を得てクラブ訪問もでき、多くのロータリアンとの出会い、退任してしみじみ感ずるところがありました。大役を準備中も東日本大震災があり、クラブ訪問も震災支援金等のお願いから始まりました。多くのロータリアンの支援を得て、支援事業も変化し、ロータリアンの想いが現地に届けられました。

各クラブ訪問、地区協議会、地区大会等々、多くのロータリアンと想いを一つにでき、熊澤年度から細川年度へと繋がって行く、その歯車の一部に役立つことができたと感じました。

第2グループの4クラブは地域の絆が特に強く心配はありません。会員は減少にはありますが、明日に向けて奉仕の精神をモットーに地域と仲間と共に進んでおり、更なる結束をご期待申し上げます。

各クラブ会長、幹事さん達には改めてご支援に感謝申し上げ、さらに明日に一人でも多くのロータリアンと共に申し上げます。



第3グループ担当ガバナー補佐
長田 正文
(岩見沢東RC)

退任ご挨拶

私のガバナー補佐就任は予定外の事でしたが、一昨年ガバナー補佐会議で熊澤ガバナー・エレクトの熱い思いに触れ、私もその思いに引き込まれて行った事が思い出されます。

当初、ガバナー補佐の心構えなど全くなく、熊澤ガバナーの地区目標をどの様にして達成出来るか色々悩みましたが、第3グループの各クラブ会長、幹事様のご協力を戴き、何とか60%ぐらいは達成出来たのではないかと感じております。IMは地区内で一番初めに行いました。テーマを「見つめ直そう ロータリーの心」と決めロータリーの原点である職業奉仕にスポットを当て、それに沿った内容にしました。講演会では、国際ジャーナリストの手嶋龍様をお迎えし講演をして戴きましたが、一般の方の参加を求めたところ200人ほどの方が来場して下さいました。

この1年間非常に忙しい年になりましたが、ガバナー補佐幹事の手助けと、第3グループの会長、幹事の皆様を私をサポートして下さい、何とか私の責務を果たす事が出来ました。すばらしいロータリーの友情と私を指導して下さい、熊澤ガバナーはじめ地区役員の方々に感謝を申し上げ、私の活動報告といたします。ありがとうございました。



第4グループ担当ガバナー補佐
石谷 邦彦
(札幌西RC)

ガバナー補佐退任のご挨拶

熊澤ガバナー、地区役員、各ガバナー補佐の皆様ならびに第4グループ各クラブ会長・幹事はじめ会員の皆様のご支援とご協力のおかげで、ガバナー補佐の任期を無事終えることができ心から感謝申し上げます。

ガバナー補佐の主要な役割として「ガバナーの要請にクラブが応じるように働きかける（ガバナー補佐要覧）」とありますが、最も効率的な方法が会長・幹事会の効果的運用であろうと判断し、第5グループの齋藤ガバナー補佐の同意を得て、第4、第5グループ合同会長・幹事会を年度内に6回開催し、実質的協議を重ねました。この組織的活用は、熊澤ガバナー年度の数多くのテーマをよく咀嚼したと思っております。

また、各クラブ訪問では、すべてのクラブが個性的であり、様々な活動をされていることを改めて認識致しました。

第2510地区の各クラブの益々の発展を祈念して、退任のご挨拶とさせていただきます。

一年間有り難うございました。



第5グループ担当ガバナー補佐
齋藤 康嗣
(札幌真駒内RC)

ガバナー補佐を終えて

ガバナー補佐の役目を終了して、この1年半大変に忙しい思い出と激動のグループ内クラブ調整だったと考えます。ガバナー補佐の初めての仕事は、札幌市内ロータリー交換学生支援委員会の明確化と新組織の作成でした。札幌市内のクラブ会長・幹事さんには大変ご苦労をかけました。

会長・幹事会は第4・第5グループ合同会議で第4グループ石谷ガバナー補佐の絶大なる協力により、議題・質疑をまとめ、地区の考えに沿うように解決しました。IMも第4・第5グループ合同で開催し、各クラブの会員の増強に役立てていただきたいと「会員増強」を議題にし、又福島飯館村の小学生に希望を持たせようと会場に引き激励いたしました。

東日本大震災において台湾ロータリーから多額の義援金が送金されてきております。ロータリーの友情は国を越え、人種を越え、たしかに絆として結びあっていると思います。若内RCと台湾台北新クラブとの友好クラブ調印の仲人として、新しい絆となりますようお祈りしております。

最後に、熊澤ガバナー、杉江代表幹事、第5グループ各会長・幹事・会員の皆様、1年間誠にありがとうございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



第6グループ担当ガバナー補佐
谷内 馨一
(小樽RC)

ガバナー補佐退任挨拶

2008年、私が小樽クラブの会長を務めていた時、例会会場に前触れなく現地区研修リーダーである塚原房樹氏が来訪されました。例会終了後、同氏からご相談されたことは、小樽クラブは久しくガバナーを出していないので、是非選出してもらいたい、というお願いでありました。早速歴代会長会を開き検討した結果、熊澤隆樹会員に白羽の矢が立ち、早速私が折衝役となってようやく熊澤会員のご了解をとりつける経緯がありましたが、このことが後に違う形で私に跳ね返ってくるとは思いませんでした。小樽クラブからガバナー補佐を出す順番でしたが、この時熊澤ガバナー・エレクトから逆にガバナー補佐を指名されることになり皮肉な因縁になってしまいました。

当然引き受けざるを得なくなりましたが、浅学非才の私に果してガバナー補佐が務まるかどうか、受諾後しばらくは自問自答したものであります。その後、地区ガバナー補佐研修セミナー、PETS、地区協議会等々の研修を受ける内に、折角受けたのであれば、これを試練として受け止め、これまでのロータリアンとしての無学を返上すべく色々な情報誌・ロータリー誌に目を通し、入会後の無為徒食の20年間を取り返すつもりで1年間職責に取り組んでまいりました。しかし、所詮は口耳之学に過ぎない知識で、クラブ訪問・協議会、会員増強卓話など実施してきましたが、果たしてガバナー補佐の職責を全うすることが出来たかどうか、この評価は皆様におまかせ致したいと思っております。これまで知らなかったロータリー知識等の吸収、そして何よりも得難かったのは、多数のロータリアンと友情を育むことができたことが最大の収穫でありました。

この1年間、同僚会員そして第6グループ各クラブの皆様から感謝と御礼を申し上げ、退任のご挨拶と致します。



第7グループ担当ガバナー補佐
大坂 直人
(由仁RC)

ロータリアンに支えられて

熊澤隆樹ガバナーと共に歩む1年を完遂できたことを皆様に感謝申し上げます。

所属グループはまさにホームグラウンドであったはずなのに、なんと発見・納得・合点の多かったことか。輝いているロータリアンがそこそこいらっしゃることを知らなかった自身を恥じました。

各種地区会合・公式訪問等で度々熊澤ガバナーのこの年度にかけの想いを間近で聞き、納得できたことと、訪れた各クラブで奉仕活動に智慧を絞られているロータリアンの姿に私自身のロータリー魂に火をつけられました。

大きな苦難を共に背負い、乗り越えるために私たちがすべきこと、できることを、この一年間私たちはそれぞれのクラブでとらえることができたのではないのでしょうか。

ロータリアンとして試された1年はなすべき進路をさだめ、行動を起こすことができました。行動する奉仕が集まり心が奮えるほどの成果が私たち自身を鼓舞したのではないのでしょうか。未熟であった私自身がこの役目を通してロータリーの力の技を魅せつけられ、虜になった瞬間でした。

この一年の働きはみなさん、ロータリアンに支えられて無事終えることができました。心より感謝申し上げます。



第8グループ担当ガバナー補佐
山科 幸一
(えりもRC)

ガバナー補佐を終えて

熊澤ガバナーからガバナー補佐の委嘱を受け、改めてロータリーとは、そしてガバナー補佐としての勉強をさせて戴きました。グループ内の会長、幹事さんをはじめ会員皆様の温かいご支援ご協力を戴き何とか任期を全うする事が出来ました。

熊澤ガバナーが掲げた①ロータリーの活動を担う新しい会員を増やすこと。②全会員参加型の新しい奉仕活動を年度内に1つ行うこと。③周りの人にロータリーを巧みに語り伝えること等について、第8グループ5クラブが真摯に取り組んで戴いた事に感謝申し上げます。

またIMにつきましては、ガバナーが唱えていた「形から入るCLP」に鑑み、グループ内の会員の皆様に、その必要性を認識して戴きたく「CLP導入と会員増強について」と題して丸山淳士地区研修委員に講演をお願いし開催させて戴きました。当日寒中、地区内120余名の会員に参集戴き盛会裏に終了出来た事に改めて感謝申し上げます。

私にとりましてこの1年間、熊澤ガバナーをはじめ、各ガバナー補佐、そして第8グループ内会長、幹事、会員の皆様に心から感謝申し上げます。有難うございました。



第9グループ担当ガバナー補佐
内池 眞人
(室蘭北RC)

ガバナー補佐退任挨拶

熊澤ガバナーより抱負と決意を熱く話され、指導を受けましたガバナー補佐研修セミナー。熊澤ガバナーの抱負を第9グループ会員の皆様にお伝えし、理解実践してもらうことが私の使命と決めました。特に「地区目標の達成」、「CLP導入の推進」に力を入れました。熊澤ガバナーの力強いリーダーシップのもと、ある一定の成果が出たのではと思っております。IMでは～地区目標達成に向けて～と題して6クラブ会長によるフォーラムを行い、素晴らしい研修の場になりました。また、忙しくお疲れの中、熊澤ガバナーにお願ひし登別市長、虻田町長、伊達市長、室蘭民報社社長にロータリーを理解してもらうため表敬訪問をしたことが懐かしく思い出されます。

会長・幹事会においてはCLPについて熱く語りあい、CLP導入が次年度4クラブ、次年度1クラブ、洞爺湖クラブは現状のままと決定しました。会長・幹事の皆様には無理難題な要求にもかかわらず、進んで努力して戴いたことに頭が下がります。ありがとうございました。

苦楽を共にしたガバナー補佐の皆様、地区委員の皆様、第9グループ会員の皆様、杉江代表幹事、そして最後まで温かい指導をして戴いた熊澤ガバナー、ありがとうございました。

ロータリアンの素晴らしい仲間と親睦を深めることができましたのはガバナー補佐任務のおかげであります。ロータリアンの皆様に心から感謝、お礼を申し上げ退任の挨拶といたします。



第10グループ担当ガバナー補佐
柴田 繁男
(函館RC)

ガバナー補佐退任にあたって

早いもので、もう一年の任期が終わろうとしています。

お陰様で10グループの会長さん、幹事さん始め各クラブの皆様の友情に支えられながら、有意義で貴重な経験をさせて戴きました。

一番記憶に残っている事は、函館PETS（私達はそう命名しました）です。2011年3月11日のあの東日本大震災により会長エレクトセミナー（PETS）に行かなかった私と第10グループの4RCのため、3月26日熊澤ガバナー（当時エレクト）が、わざわざ来函され函館PETSを開催されて、自らRIの現状、地区の方針等の説明を戴きました。その後、函館市内の朝市等、災害の状況を視察され、熊澤ガバナーのロータリアンとしての真摯な姿勢と心暖まるお人柄に触れ感動したことを覚えております。

今年度に入り、ガバナー公式訪問、地区大会、IM等色々なシーンで沢山の方々のご指導、ご協力を戴きました。

ロータリーの綱領の第一に「奉仕の機会として知り合いを深める」がありますが、正にその言葉通り出会いの喜びと身の引き締まる感謝と素晴らしい感動を沢山戴いた一年間でした。

最後にご指導戴きました熊澤ガバナーに心より尊敬の念を表し、杉江代表幹事をはじめとする第2510地区の役員の皆様、各ガバナー補佐の皆様、第10、11グループのロータリアンの皆様へ心からの感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。



第11グループ担当ガバナー補佐
能戸 彰
(函館五稜郭RC)

出逢いの素晴らしさ

一昨年の12月、小樽で次期ガバナー補佐会議が開催され、その時初めて熊澤ガバナー、杉江地区代表幹事、そして仲間である11名の同期のガバナー補佐に会うことができました。私にとっては2度目のガバナー補佐の要請でしたので、今回は断ることができませんでした。1度目は酒井ガバナー年度の地区代表幹事真っ最中の時だったので、申し訳なかったのですがお断りさせて戴きました。

さて、ガバナー補佐を引受ける当該年度の始まる半年前から、会議、研修、会長エレクト研修セミナー、地区協議会、現新ガバナー補佐会議と休まる暇はありません。さらに、昨年は姉妹地区であるRI第3700地区（韓国・大邱市）の地区大会にRI会長代理として田中作次RI会長ノミニーがいらっしやるというので当地区からもたくさん応援に行こうと招集がかかり、酒井年度以来3回目の地区大会に参加させて戴きました。同期のガバナー補佐も4人参加いたしました。晩餐会後の2次会では、田中作次さんと隣り合わせ、親しくお話をさせて戴き感激致しました。

熊澤ガバナーには、7月（5泊6日）、8月（4泊5日）と2度に分けて第10、11グループの公式訪問をして戴き、長い時間一緒に過ごす機会もあったので、たくさん話をする事ができました。このように、田中RI会長、熊澤ガバナー、杉江地区代表幹事をはじめ地区幹事の皆様、そして同期の11名のガバナー補佐、第10・11グループの会長・幹事、さらには第11グループの会員の皆様に、出逢いに感謝御礼を申し上げます。



第12グループ担当ガバナー補佐
岡田 秀樹
(苫小牧北RC)

ガバナー補佐を終えて

この1年間、グループ内会長・幹事、各クラブの皆様を支えられ、ガバナー補佐の任期を終えることができました。IMでは、「ロータリーの心（東日本大震災へのおもひ）」とのテーマで、地区の皆様やグループ内各クラブに東日本大震災による被災地域への支援活動等について報告いただきました。12グループとして、震災とロータリーの奉仕活動について考えることができたのではないかと思います。

私が地区とクラブの橋渡しとして、十分に役割を果たせたかを考えますと、力及ばないことも多々あったと思います。例会で唱和される「4つのテスト」、「真実かどうか。みなに公平か…」と唱えていくうちに、自分の生活を省みて私の胸にチクチクと刺さってくるのを感じますが、「利己的な欲求」と「他人のために奉仕」したいという心の矛盾を抱えながら、私は毎週の例会でロータリーの仲間から新たな力をもらっております。

ガバナー補佐としてグループ内各クラブの例会、クラブ協議会に出席いたしました。どのクラブからも親愛なる励ましとお力添えをいただきました。

1年間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



地区委員長退任ご挨拶

【 会員増強委員会 】

委員長 **佐々木正丞**
(札幌RC・PG)



会員増強は、ロータリーにおいて組織維持のため必然のテーマです。当地区でもここ数年、年度末の会員数が期首を割り込む状況が続いております。増強はクラブ存亡の問題です。

会員の減少について原因はいろいろありますが、ロータリーが魅力を失ったことが最大の要因だと考えられます。地方によっては経済情勢も直接影響しています。過疎化の問題も深刻です。人々の価値観も多様化しております。

今年度、当地区で最も増強に成功したクラブは入会が多かったこともありますが、退会者が一人もないクラブでした。皆、共通して会員増強をクラブ最大の重点課題として位置づけ、前向きに積極的に会員増強に取り組んでいました。会員増強と退会防止についての最大のキープポイントは、会員減少に危機感を持つことです。

今年度も当地区の会員減少に歯止めがかからず誠に残念です。しかしながら、3年後、5年後のクラブがどのような姿になっているかを想像し、CLPをうまく導入しながらクラブを活性化することも一つの方法です。そしてロータリーの魅力を巧みに語り伝えることが今後も重要だと考えます。

【 拡大委員会 】

委員長 **酒井正人**
(函館五稜郭RC・PG)



会員減少が著しい中、会員増強とクラブの拡大は地区にとって重要な課題であります。

第2830地区の弘前アップルロータリークラブに見られるように、若い世代によるクラブを当地区に設立出来ないか模索してみました。

第2510地区の広域性を考慮して、財団学友、米山学友を中心として札幌を中核に函館などに点在している学友を、テレビ電話(インターネット・スカイプ等)を利用して、顔の見える例会を同時開催出来ないか、そして、その手続き方法をRI日本事務局と相談しましたが、前例がないことと隣接都市間ではないので、クラブ創設の要件に適合しないとのことでしたので、今年度は諦めました。

しかし、他に方法がないか思考の余地はあると思っております。

【 RI 国際大会推進委員会 】

委員長 **渡邊恭久**
(滝川RC・PG)



2012年5月6日から9日まで、タイ・バンコクで開催された今年度のロータリー国際大会は、日本から30年ぶりにRI会長として指名された田中作次氏ががいよいよ会長として就任直前の晴れの舞台となります。アジアでの大会に、地区の大勢の会員が参加してエールを送ろうという意味があって、委員会としてはPETS、ガバナー月信に3度にわたってお知らせと勧誘を致しました。

第2510地区の会員参加の実数は個人登録なども多くあり確認ができませんでしたが、参加者数は世界で33,104名、日本は3,654名と公式発表がされました。地区内では、北海道ナイト(第2510地区主催)に70名位の参加があり、これに参加されない会員を30名とし加えますと、国際大会には100名は参加戴いたものと承知を致しております。多数の参加に心からお礼を申し上げます。

とりわけ5月5日に開催された「北海道ナイト」は、かつてGSEの団長で北海道に来られた孫文氏の温かいご支援と、当地区がWCSで奉仕活動をしているタイ・ノンカイのロータリアンやタイのロータリアンが大勢参加され、国際色豊かなパーティが地区国際奉仕委員会関係者らによって演出され、賑々しく進行し、楽しく体験をすることができました。ご準備を戴いた国際奉仕委員会の皆様、出村知佳子会員にお礼を申し上げ報告と致します。

【 文献資料室 】

委員長 **八木 徹**
(札幌東RC)



この一年間ですが、前年度から引き続き行っていた資料の整理・追加などはスムーズに進みました。貸出しリストをWeb上にもアップしていましたが、内容の問合せがいくつかありましたので、Web上にリストがアップしてある事の周知が必要だと再確認出来ました。

ビデオの貸出しについて、資料のVHSビデオテープをDVD化したのですが、貸出しの中でVHSテープでの要求がまだあった事からVHSテープでの貸出し(保存)が必要だと再認識出来ました。より借りやすい環境整備がまだまだ必要で、現資料の保管(存続)の方法を合わせて考えて行きたいと思えます。

【 クラブ奉仕委員会

委員長 **長谷川 壽朗**
(札幌手稲RC)



今年度のクラブ奉仕委員会は、いわゆるCLPについて熊澤ガバナーからの要請に基づき答申書を提出する機会を与えられたことは特筆すべきことだったと思っております。

過去3年度に渡って当委員会で行って来た「効果的なロータリー・クラブとなるための活動計画の指標」並びにCLP導入についてのアンケート調査を集計、分析した結果から見えたのは、CLPに取り組もうとする場合、我が国のようにロータリーの中心概念が「職業奉仕」にあるとして、ロータリーを発展させてきた事実は重大であり、今後も「職業奉仕＝職業倫理の確立」は、ロータリー・クラブのアイデンティティづくりの場での研修事項として必須であるということでした。

また、CLPに取り組む場合、従来の委員会の枠を超えて「CLP特別委員会」といった特別委員会を時限で設置し、権限を与えることも必要だろうと思えます。

更に、CLPを取り入れ、実のあるものにするには、新会員、会員に継続的な研修は欠かすことは出来ません。研修については、地区のサポート体制も重要になります。地区にRLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）などの研究部門を設けることも必要になるものと思っています。

ともあれ、熊澤ガバナーが提唱された『形から入るCLP』に、モデル・プランとして一つの指針を提示出来たことは、大きな成果だと思っております。

最後になりましたが、今回の答申書につきましては、宮部副委員長並びに委員の方々のご尽力対しまして、心より感謝申し上げます。

【 広報・IC委員会

委員長 **堀江 和美**
(砂川RC)



「第6回5分でできるホームページ作成講習会」を2012年1月29日（日）、午後1時30分より札幌市学習センター“ちえりあ”で2時間開催しました。

「5分で…」とあるのに、2時間の講習ですから、「看板に偽りあり」と言われてもしょうがありませんが、ひな型の入力が入力が5分間以内であり、今回受講された方々のスキルが高かったせいもあり、「疲れたあー」、「サギだ」とは一人からも出ませんでしたので、「ほっと」しているところです。

今回の講習会には小樽南RC、札幌北RCの方々に参加していただきましたが、『クラブのホームページを作成するぞ！』とかなり明確な意思をお持ちのようでしたので、ホームページの「作成」に加えて、「運用面」にも少しだけふれた講習会の内容となりました。小樽南RCは作成後公開、札幌北RCは作成が終了し公開可能の状態になっています。

地区大会ではブースを開設し、多くの方に訪れていただき楽しい情報交換の場となりました。また過去7年分のガバナー月信を単語検索できるようにしたファイルやロータリー活動に役立つ情報を収録したCDを配布し好評でした。

また、委員が分担してメールマガジンを配信しました。内容は、「ハイライトよねやま」、「ロータリー為替レートのお知らせ」、「地区ホームページ更新のお知らせ」等です。現在の登録者数は約500名で、1年間で配信したメールは約100件でした。次年度以降、メールマガジンの活用として地区からの情報発信等を付け加えていきたいと考えております。

今年度から委員会名称に広報が付け加えられました。広報には、会員向けの広報と会員以外の方々にロータリーを理解していただく広報の2つがあると考えていますが、情報の整理として「RID2510資料集」というサイトも立ち上げています。会員皆様からのご感想をお聞かせ願えればと思います。

1年間、会員皆様の温かいご支援を賜り、また委員会メンバーに支えられ無事に終えられたことを感謝申し上げます。

【 職業奉仕委員会 職業奉仕の原点を探る1年

委員長 **山本 雅昭**
(苫小牧北RC)



昨年度地区職業奉仕委員長を務めさせていただきました山本でございます。私は3年間地区職業奉仕委員会を受け持たされ本年が最後の年でございます。渡邊PG、佐々木PGそして今年度の熊澤Gには共々大変ご指導を受けましたお世話になりました。まずはお礼を申し上げます。

3年前は漠然としか職業奉仕を理解していなかった私でも務めることができ心底ほっとしているところです。ロータリーの職業奉仕とは何かと疑問を持ち、ロータリーの源流を勉強させていただきその原点を理解できたのではないかと思います。今年度は各クラブにおける卓話で「心学の祖、石田梅岩の心とロータリー職業奉仕」というビデオを見ていただきましたが、その中にロータリーの心とは何かという基本が分かりやすく述べられていたと思います。職業人として守るべき心が梅岩の心と同じであり、これからは「心の発明」が必要とされていると強調されておりました。とても示唆に富むビデオであり、多くのクラブでも好評であった事は卓話の題材として使用しとても良かったと思っております。



ロータリーの職業奉仕には多くの矛盾点がありますが、結果としては「ロータリーの目的」そのものであり、まずは「奉仕の実践」に先立って行う、「奉仕の心」を育む運動ではないか思います。

すなわち、職業奉仕とは、奉仕の「心」・「思いやる心」を磨くことではないかと、そしてそれは、ロータリアンの生き方そのものであり、その人の人生を貫く人生哲学、心のあり方の問題でもあります。今では、そんな風に理解しております。

これとは別に、地区職業奉仕委員長としての立場で東日本大震災救援奉仕プロジェクト委員会に委員として参加させていただき、福島県飯舘村への車の贈呈式にも参加させていただきました。同時にいわき市の海星水産高校を視察して回りとても良い経験をさせていただきました。どちらも大変な被害状況でありその悲惨さと復興への決意が感じられ、我々も真摯な対応が必要と身の引き締まる思いを受けました。

この一年間多くの経験をさせていただいた事に感謝しお礼の言葉で締めさせていただきます。ありがとうございました。

奉仕プロジェクト委員会 地区奉仕プロジェクト活動報告

委員長 **阪崎健治郎**
(札幌西RC)



長いようで短かった熊澤ガバナー年度が終わりました。当初ガバナーから幾つかの方針をお示しになった中に、ロータリーの活動の活性化のひとつとしてCLPの積極的な導入をあげられました。国際ロータリーは、すでに従来の三大奉仕から五大奉仕に方向を転換され、新しい模索が始まっています。また2013年から推進予定の「夢の未来計画」は新しいロータリーの活力ある動きに期待されているのです。

当地区にはじめて設置された「奉仕プロジェクト委員会」は、社会奉仕、国際奉仕、それに新設された新世代奉仕の三分野を統合して編成されました。しかしこの委員会は単にこれらを統合するだけでは組織の屋上屋を重ねるに過ぎません。重要なことはこの委員会自体が創造的に活動することが期待されていたと思います。もちろん地区という立場ではなく、各クラブにとって益になるような活動の発見でした。

私は立場上、幾つかの取り組みを提案しました。まず帰属する各委員会の活動を理解し、必要に応じて協働性の有無を発見する。次には当委員会独自で創造的活動の研究を行い、クラブに発信することでした。

ことに重要なことは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の支援活動のサポートでした。三分野の委員長で構成された奉仕プロジェクト委員会はそれぞれに担っている委員会を中心に情報収集や発信に力点を置きました。幸い、各委員長は献身的に協力され、その成果は地震関連委員会に集約されました。しばらくはそうした形で協働することに力点を置くことになったのです。

委員会として具体的な成果を上げることができませんでしたが、幾つかのクラブは、すでに「奉仕プロジェクト委員会」を立ち上げ、一定の成果があったと伺っております。今後実践されたクラブから情報をいただき、細川ガバナー年度にいささかでも繋ぐことができたらと願っております。

ロータリーは年々形を変えながらも発展しています。会員の減少や活動の活性化など、苦悩しつつも懸命に取り組んでいる姿を想像するだけで勇気付けられます。努力なくしてよい実りはありません。しかし努力すれば必ずその分の成果を挙げることができると思います。とは申せ、年度のまとめの大切な期間に個人的な理由で活動を停止したことを大変心苦しく思っております。熊澤ガバナーをはじめ、関係各位に心よりお詫びいたします。早く回復してご迷惑を取り戻すことができたらと日々努めているところです。

以上簡略ですが、報告といたします。

社会奉仕委員会

委員長 **清水 哲**
(札幌東RC)



今年度は、『地区ブロック別意見交換会』は休止し、趣旨を発展させて、昨年度に委員会で編集した『国際ロータリー第2510地区社会奉仕活動レポート 明日へ』を活用し、クラブの参考として戴きたいと考え、次の三つの活動をおこなった。①静内で催された地区協議会において、『明日へ』に活動が掲載されているクラブの代表により、それぞれの活動についての詳細を発表して戴き、各委員が活動への理解を深めた。②要望のあったクラブにでかけて、卓話をおこなう。③『明日へ』のCD版を制作し、配布し易くした。

委員長の私は、前年度に設立された、RID2510大震災救援奉仕プロジェクト委員会の一員としての活動が中心となった。委員会の奉仕活動のひとつである、『福島キッズキャンプ in 北海道』では、実行委員長をつとめさせて戴き、春編を皆さんの協力のおかげで無事に実施し、社会奉仕委員会メンバーは、全員でキャンプ春編で札幌ミサンガラリーの実行部隊の一翼を担った。夏編は堀江キャプテンを中心に、2012年8月

に砂川をベースキャンプとして実施予定である。

今年の社会奉仕委員会と社会奉仕委員長、大震災救援奉仕プロジェクト委員の活動を顧みてみると、社会奉仕委員会では、『地区ブロック別意見交換会』の中止により、委員の方々には、経費と労力の軽減にはなったものの委員会活動を通じての互いの交流と研鑽の機会が少なくなった懸念があった。また地区委員と各クラブの委員との関係についても同様のことが言えた。

一方、大震災救援奉仕プロジェクト委員会での活動をつうじて、まったく逆に経費（注：社会奉仕委員会の経費はほとんど使っていないが）と労力は大いに費やしたものの、2510地区の会長、幹事、各ブロックのガバナー補佐、他の委員会のみなさんとの相互理解や研鑽につながったと感じる。特にロータリー財団がこれほど身近に感じられることは、多分こういう機会がなかったら、一生なかつ

たでしょう。

また、キッズキャンプの実施に当たっては、ロータリーのまわりにおいて今まで、気づくことのなかった団体、たとえばインターアクト、ローターアクト、ライオンズクラブ、地域のボランティア団体、個人、企業などと協力して活動する機会を持てた点は、今後のロータリークラブの社会奉仕活動の在り方のヒントにもなった。

次年度は、今年の活動を通じて得た、情報交換、情報公開、組織間の協力、外部組織との交流などのノウハウを生かして、地区社会奉仕委員会本来の役割を果たすことにも力を注ぎたい。

【国際奉仕委員会 大災害のなかで

委員長 **手塚 貴志**
(白老RC)



今年度からR Iの方針でW C S (世界社会奉仕) プログラムが廃止され、加えて地区のD L P (地区リーダーシッププラン) の推進と地区組織の再編から従来の活動内容を踏襲する形でW C S委員会が国際奉仕委員会に統合されることになりました。

地区チーム研修セミナーでは大幅にカットされた予算(一般地区資金、特別地区資金)に血流が逆流し、執行部に対しロータリー会員にはあるまじき品位に欠ける言葉で抗議いたしました。しかし、会議が終了する頃には執行部のご理解を戴き予算復活の了解いただき胸を撫で下ろしました。

今年度は23・3・11の東日本大震災とタイ国の大洪水があり災害の年でありました。

委員会としても国際奉仕をいかにすべきかと迷いましたが、熊澤ガバナーの「例年通りやってください」の指示の下、タイ国を中心に浄水器事業、通学自転車、図書設置、学校修復、チェックダム、洪水支援事業

などを行いました。

東日本の大震災、原発事故の支援を行いながら、地区内15クラブに参加いただき12の国際奉仕事業を行うことができましたことに対し心からの感謝を申し上げます。

只、残念なことはタイ国の洪水と世界大会のバンコク開催を考慮し今年度は検証事業を中止したことです。

私は国際奉仕活動を広く理解戴けるように地方クラブから委員として多数参加戴きました。遠い方は留萌、三石の方もおられ札幌まで数時間もかかります。夜7時からの委員会にも拘わらず出席され熱心に討議戴き活発な活動ができました。

加えて検証事業にも参加戴きタイ国のパートナークラブとの親善友好に大きな貢献をして戴いた委員の皆様には深く感謝申し上げます。

次年度の委員長は松原重俊(砂川RC)氏をお願いすることにいたしました。松原新委員長の下、当地区の国際奉仕事業が益々発展しますことを念じ、合わせて多方面にわたりご協力戴きました多くの皆様に御礼申し上げます。私は委員長を退任させて戴きます。ありがとうございました。



【新世代委員会 いっぱい一年間

委員長 **柳 孝一**
(札幌南RC)



今年度を振り返るとまさにいっぱい。四大奉仕から五大奉仕へ実質1年目の今年度、今年4月に開催された青少年交換研究会の実行委員長を予定外に仰せつかり、心構えも無いまま丸山PG、熊澤G、杉江代表幹事にうまく乗せられ、約一年の準備に加え、細川年度の活動方針ができたところから、次年度にむけたRYLA委員会の組織作りと10月に行われるRYLAの企画等が始まりました。

10月に行われた地区大会の並行プログラムで開催された新世代プログラム、小樽RCの皆さんにお世話になりっぱなしで行われました。参加したインターアクトから「楽しかった」と言われ、私も嬉しかったです。

3月には地区内クラブの新世代関連委員長が一同に介した新世代委員会議も準備不足中、今年度初めて行いました。予想より多く60名弱のロータリアンにお集まり戴き、活発な意見交換をしました。これも五大奉仕に加わったことで認識が高くなった現象としてとらえました。

やはり一年間を振り返ると青少年交換研究会札幌会議実行委員長が一番大変でした。全国レベルの会議・会合が東京以外で行われることは、そうはありません。(詳しくはガバナー月信6月号に掲載済みです)全国から約350名のロータリアン・ROTEXが札幌に集まること、準備にかかる運営費はもちろんすべて費用は、登録料で賄わなければならない、赤字は出せないと、現実の中、ホームクラブはもちろん、地区協議会等で少しでも知っているロータリアンに片っ端から登録のお願いをしました。その甲斐もあり、赤字にはならず、会議も無事終了できたことが一番でした。

多くのロータリアンと出会い、準備に費やした多くの時間は、これからのロータリー活動の糧になると確信したいです。

一年間委員会を支えて戴いた、伊藤地区担当幹事、坂田地区委員、若松インターアクト委員長、渡邊青少年交換委員長、蝦名ローターアクト委員長はじめ、新世代プログラムに関わって戴いたロータリアン皆様に感謝いたします。

最後に昨年度より大震災救援奉仕プロジェクト委員会の委員を兼務しながら、同委員会ではほとんど働けなかったことは大いに反省です。



【ローターアクト委員会 ローターアクト委員長2年目を終えて 委員長 蛸名大典 (札幌南RC)】



今期も地区役員の皆様やローターアクト委員の皆様のご協力をいただき、2年目の地区委員長の役目を終えることができました。

新世代を加えた五大奉仕となった今期は、他の新世代委員会との交流や被災地のアクターへの支援や交流を活動計画に挙げて活動をスタートしました。基本的には活動計画に沿った活動ができた期になったと思います。

前期初めて参加したインターアクトクラブの年次大会で、今期はローターアクターの活動報告や会員募集を行うことができました。

被災地にも出向き地震や津波で被災した街を目の当たりにしたことで自分たちにできる支援を考え直すこともできました。

また、ほぼ活動休止状態であった岩見沢クラブのバックアップを行い、17名まで会員を増やし地区活動ができるまでになりました。上記のように今期は考えていたことがほぼ実現できた年となりましたが、来期もう1年の任期がありますのでこれを足がかりとし、さらに来期の活動が充実したものになるよう新世代委員会と協力し活動を進めたいと思います。

今期1年ありがとうございました。

【インターアクト委員会 3年間お世話になりました 委員長 若松 孝 (札幌モーニングRC)】



地区インターアクト委員長としての3年間が終わりました。お世話になりました。

今年は、去年同様、8月に香港のほうに海外研修に行かせてもらいました。交流先は香港大学專業進修学院の日本語を勉強されている生徒さんたち。おとしまでの韓国から変えた一番の理由はコミュニケーションにあります。どうしても韓国語だとなじみが薄く、生徒さん同士の交流に限界を感じたからであります。英語圏でしかも、片言の日本語も話せて、いままでの予算で収まるという条件では、この香港大学の生徒さんとの交流はよかったのではないかなあと考えております。

また、6月にはインターアクト年次大会を札幌RCさんのホストにより、100名を超えるインターアクターが集まり、大成功に終わりました。札幌RCのみなさま、ありがとうございました。特に、去年から続いている「地球のステージ」という舞台は、ぜひ多くのロータリアンにも観て戴きたい素晴らしいものです。

私のような「キワモノ」ロータリアンが地区委員長を仰せつかり、さぞたくさんのご迷惑をかけたことと思います。すべての年度の方々に可愛がって戴き、たいへん助かり、たいへん楽しい3年間でした。とてもよい出会いに恵まれました。多くのロータリアン、多くの学校関係者、触れ合ったさまざまな方々に、ただただ、感謝です。

ありがとうございました。

【青少年交換委員会 一 委員長この1年 委員長 渡邊哲則 (札幌東RC)】



2011年夏に当第2510地区から7名の交換学生を派遣し、アメリカ、カナダ、フィンランド、オーストラリアから6名の学生を受入れました。2012年冬にオーストラリアから1名で合計7名、2012年2月にカナダへの派遣生1名が早期帰国となりました。2012年4月にオーストラリア1名が期間満了で帰国、6月末で6名の学生が元気で頑張っています。

2011-12年度は青少年交換委員会にとりまして、念願だった第17回国際ロータリー日本青少年交換研究会(札幌会議)が開かれました。15年も前から札幌開催を切望されていましたが、実現できず2012年4月に札幌パークホテルにおいて盛大に行われました。北海道という地理的に不便という事もあって参加者数の減少が懸念されましたが、登録者数は受付・インターアクト校のお手伝いを含めると400名を超えました。

2011年7月には当地区と第2500地区と合同で、受入学生を対象とした北海道周遊旅行を初めて企画しました。この旅行は受入学生の自己負担で行う旅行です。この旅行は相手地区と同等程度で企画して行くものですが、今まで当地区では学校の修学旅行をそれに充当していました。札幌をスタート地点として、函館、紋別、道東、道央そして洞爺湖を7泊8日で回りました。知床では思いかげず、ドライブ中にヒグマと遭遇し、学生達は歓喜の声をあげていました。

2011年夏に来日した受入学生もまもなく帰国です。たくさん思い出と共に元気に帰国して、素晴らしい大人になってほしいと思います。

【ロータリー財団委員会

委員長 **岩城 秀晴**
(札幌南RC・PG)



財団委員会より、この2011-12年度を振り返ってみますと、日本における財団も東日本大震災による見舞い及びプログラムが出現致しまして、本来の財団のプログラムの形が薄れたように見受けられましたが、財団としてのプログラムでありますGSEが別々に実施されましたが、十分にその成果はあったと評価致します。

また、国際親善奨学生につきましても、留学生の派遣もプログラムとして、本年7月に壮行会も実施致しました。財団学友につきましても、財団学友会の10周年記念行事を実施し、全国的にみてもその実績の評価は高く、今後もその延長線上で努力されることが出来ました。

地区補助金につきましては地区補助金委員会が財団としての補助金の交付基準が、人道的な基準に移行しているために、その実態把握に委員会としてはご苦労されておりますが、申請されるクラブもその理解を深

めて戴き、実態をロータリアンとして、汗して奉仕する姿が申請書に理解されるようにご理解があった方が良いのではないかと考えられます。

一方、2011-12年度の1年間の地区特別報告が財団より届きましたが、地区の寄付額として今年度の年次寄付の目標を300,000ドルとしましたが、実績としては304,997ドルでありました。ポリオ、使途指定、恒久基金で49,155ドル、合計354,152ドルでした。前年比では92%となりました。甚だ申し訳ないですが34地区では27番目に位置しております。

然し、この年度は東日本大震災の寄付もあり、大変に会員の皆様にはご負担もこれあり、何かとご協力を賜りましたことに対しまして厚く御礼申し上げます。

また、寄付につきましては公益財団法人ロータリー日本財団に寄付金控除が租税の面での優遇措置もあります。

さて、この年度におきまして未来の夢計画の実現に向けて、一步一步と進めて参りましたが、どうしても形式を移行することが精一杯でありまして、クラブの皆様にはご理解を得るために、会長エレクト研修セミナー(PETS)、地区協議会において現行を理解して戴きながら、未来の夢計画の理念を理解して貰うというセミナー方式でした。手続の内容につきましては2012-13年度においてセミナーを実施して理解を戴くことに致しましたので、「未来の夢計画」の内容につきましては、十分にご説明出来なかったと思いますので、ご容赦を戴きたいと存じます。

以上が財団委員会としての活動であります。近年は11月の財団月間にクラブより財団の卓話のご要請がありまして、可能な限りご要望に応じて参りました。大変ありがとうございました。紙上を借りて御礼申し上げます。

来年度は「未来の夢計画」につきまして担当される方々とお付き合い戴きますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。ご報告と致します。

【補助金委員会 財団の未来の夢計画の本実施に向けて

委員長 **久保田俊昭**
(札幌RC)



この度、補助金委員会の委員長を仰せつかりましたが、財団の新しい仕組み(未来の夢計画)をスムーズに軌道に乗せて、変革期に対処していかねばならないものと身の引き締まる思いをしております。ロータリアン皆様方の温かいご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

国際ロータリーの使命は、「世界理解、親善、平和を維持すること」であります。同じ使命の財団としても、各クラブが地域密着での各種奉仕プロジェクトを展開するうえで、皆様方の善意に因る浄財を効率的に活用するためにも、効果的・適正な配分に留意していかねばならないことと思っております。

2011-12年度は、財団が従来から実践しているプログラム(奨学金、GSE、地区補助金、マッチング・グラント等)を実施しつつ、2013年度からスタートする「未来の夢計画」の本実施に向けて、先行パイロット地区での実施事例を参考にしつつ、当地区としての所要の準備を怠り無く進めていかねばなりません。

地区財団としては、地区内関係委員会や細川年度の次期地区幹事等のご支援を戴きながら、地区内検討会(補助金委員会の開催)を重ね、教本としての「財団の概要」の冊子を編纂するとともに、クラブでの理解度向上に向けて「DDF活用のクラブ意向調査」のアンケート調査を実施しました(アンケート調査の結果は、ガバナー月信4月号参照)。

今後、地区としては、クラブが、地域で主体性をもって自主的な奉仕プロジェクトを実施していくうえにおいて、その調査・計画作りや、新補助金活用に向けての事務手続き等を進めるうえでの協力支援を適切に行う所存であります。

2012-13年度は、旧来の財団プログラムの実践と、2013年度から本格実施する新しい補助金制度(未来の夢計画)の実施に向けて、クラブ指導・支援や地区内関係委員会との協議を重ねて参りますので、引き続きのご指導・ご協力をお願い申し上げます。



財団資金推進委員会 奉仕活動と資金調達は車の両輪

委員長 **鍋谷 操子**
(函館セントラルRC)



この度、当委員会は2013年度から本格実施される財団の「未来の夢計画」のスタートに先駆けて新設され、不肖、私が初代委員長に就任致しました。浅学菲才の身で何の取柄もありませんが、ロータリアン皆様のご指導・ご協力を賜り、重責を果たして参りますので宜しくお願い申し上げます。

1917年の国際大会で、6人目のRI会長のアーチ C. クランフは、参加者を前にして「世界で善をなすための寄付金を受け取ることは極めて適切なことだと思われる」と、ロータリー基金の創設を呼びかけました。この時に語られた「Doing good in the world 世界でよいことをしよう」という言葉は、今、ロータリー財団の標語となっています。

翌年、カンザスシティRCが26.5ドルを基金に寄付しましたが、これがロータリー基金にとっての最初の寄付金であります。また、ロータリー財団が最初のプログラムとして実施したのが、18名の大学院生への奨学金の贈呈ですが、これが今日の国際親善奨学金制度の始まりであります。

その後、財団は多くのプログラムを生み、多くの賛同と参加を得てきましたが、今や大きく変わろうとしております。

私達が、地域社会や国際社会で奉仕活動をさらに強化し、増大していくためには、奉仕活動の充実と資金面での援助が必要であります。2001年規定審議会では、「毎年1人当たりの寄付を100ドル」にする決議が採択され、さらに2004年規定審議会では、「Every Rotarian Every Year (毎年あなたも100ドルを)」が採択され、1人1人が、毎年、寄付をしてほしいということが決議されております。

当地区としては、「毎年あなたも100ドル」を寄付することを目標に掲げ、さらに、会員数から推して、年次寄付の目標を30万ドルとしていますが、皆様のご理解によりまして、昨年度・今年度は目標を達成しており、深く御礼申し上げます。

さらに寄付金としては、上記の年次寄付以外として、恒久基金、使途指定寄付、ポール・ハリス・ソサエティへの協力についてもお願いしておりますが、ロータリアンの皆様のご理解が進んでいないことが残念でなりません。

なお、財団への寄付に対しては、寄付者に分かり易い形で、寄付行為に感謝の念を表す「認証」があり（寄付者とすぐに分かるように着用できるピンなどを寄付者に贈る）、また、個人や法人の寄付に対して、税制上の優遇措置を講じることができるようになっております。

社会経済情勢が先行き不安定で、景気回復に向けての足取りも定かでない今日、財団へのご寄付をお願い申し上げますことは心苦しいことではあります。世界平和の達成・維持に向けてのご支援・ご協力を深くお願い申し上げます。

職業研修委員会 最後のGSEプログラムを終えて

委員長 **沼舘 栞**
(札幌清田RC)



今年度は、ドイツRI第1840地区（ドイツ）とのGSE団員の受入れ・派遣をすることが最大のプログラムでした。2011年9月～10月にかけてドイツ第1840地区（ドイツ）からガブリエラ・ブラッカロ・チームリーダー率います男性1名女性3名が来道し、当地区の第2グループ（滝川RC）、第4グループ（札幌モーニングRC）、第6グループ（小樽RC）、第8グループ（静内RC）と、各グループの多くの皆様のお世話になりながら1ヶ月の研修を終える事ができました。彼らは滞在地での素晴らしい体験を通じて、日本文化と日本人の心に触れたことに大きな感動を覚えたこと、このような経験は人生の中でも得がたいことの一つであり生涯の思い出になるだろうと話しておりました。

また、当地区からは2012年4月～5月にかけて、ドイツ第1840地区へ矢橋潤一郎チームリーダー率います女性3名男性2名が派遣されました。1ヶ月の研修を終え帰国した団員の皆さんは国際人としてひと回りもふた回りも大きくなったように感じられました。これからは今回のプログラムで得た経験を生かし、地域に貢献して戴ける事を願っております。

1970年に始まりましたGSEプログラムも、今回16回目のドイツとの交換をもちまして終了致しました。42年に渡るGSEプログラムでしたが、第2510地区内の多くのロータリアンの皆様のご理解・ご支援を戴きながら続ける事が出来た事を、委員会として心から感謝申し上げます。

また先日、16回の派遣交換の締めくくりとしまして、岩城財団委員長のご協力を戴き、チームリーダーとして団員を引率されました8名のリーダーの方々にお集まり戴き、「歴代チームリーダー懇談会」を開催しました。長時間に渡り苦労話なども含め貴重なお話をお伺いすることができました。また多くのチームリーダー経験者の皆様に「GSEを失くすな」との嬉しいお言葉も戴き苦労が報われた想いでございます。

最後に私事になりますが、GSE委員長に就任しまして、第2510地区ロータリアンの皆様のご協力は基より、関係各位のご協力を戴きながら何とか3年間務める事が出来たことを心から感謝申し上げます。次年度からは神部新委員長が、また新しい形の職業研修委員会を築いて下さると思います。どうかこれまで同様に変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【奨学委員会 GSE 団長やりながら 2年目の委員長

委員長 **矢橋潤一郎**
(札幌東RC)



7月7日(土)、今年度の財団奨学生のための壮行会を開催しました。1年間オリエンテーションを受講した3名です。彼らの門出を細川ガバナー、安孫子ガバナー・エレクト、熊澤直前ガバナーはじめ、推薦クラブのみなさまや校友会の先輩方とお祝いしました。岩城地区ロータリー財団委員長から奨学生バッジをそれぞれの襟につけられ、推薦クラブからはお祝いの言葉と一緒にクラブバナーを贈呈していただきました。

ここまでは昨年と同じです。相違点は、この場に次年度奨学生がいないこと。

年明け早々に募集し、春先に選考、壮行会の日が1回目のオリエンテーション。というのが例年の流れでした。その募集を今回、休止しました。

「未来の夢計画」への移行に伴い、国際親善奨学金も変化が求められます。短期から2年まで様々だった支給期間は、ここ3年ほど、1学年のみに絞られておりました。これが地区裁量に。短期を復活させてもよし、

1年でも2年でも学業に勤しむ大学院生を支援するもよし。ただ原資は、旧GSEや他の補助金との調整がシビアになります。1年に絞られたあとも、減ったとはいえ3名分は確保してきました。短期を増やせば当然、長期は減らす必要があります。すでにパイロット地区が先行して取り組んでいます。当地区に取り入れるには周知・調整に時間がかかります。よって今回は募集を見送りました。次年度にかけて委員会内、他の小委員会との協議を重ね、翌年度中の募集再開にこぎつけられたらと考えております。

募集休止によって、私のGSE派遣チームリーダーとしての準備負担も軽くなりました。4月28日から4週間、ドイツはミュンヘンを中心とするバイエルン州の第1840地区を回ってきました。これまでの送り出す立場から、送り出される側へ。異国のロータリークラブ事情を、身をもって学んできました。準備にあたっては、ドイツに滞在していた学友に現地情報を教わりました。オリエンテーションでえらそうにレクチャーしたのが、そのまま戻ってきたようなものです。いつ立場が入れ替わるかわかったものではない、という緊張感も必要。これも今回学んだことのひとつです。

【新地区補助金委員会

委員長 **中山裕視**
(札幌真駒内RC)



今年度は2510地区の10クラブから補助金の申し込みがありました。10クラブの補助金申請総額は3,831,000円です。今年度のロータリー財団の補助金額は32,000ドルです。2011年9月現在のロータリーレート78円で計算しますと2,496,000円です。2011年10月6日、ホテルライフォートで新地区補助金委員会及び補助金監督委員会を開催しました。出席者は岩城秀晴財団委員長、遠藤友紀雄地区幹事、新地区補助金委員会より中山裕視、佐々木雅之、武井豊、補助金監督委員会より愛須一史委員長、中嶋成実委員です。各クラブのプロジェクト内容を慎重且つ公平に審議して各クラブの補助金を決定しました。決定総金額は2,440,000円です。年内に各クラブに決定補助金を振り込みしました。

クラブ名	補助金	プロジェクト概要
羽幌RC	250,000円	ピオトープ造成プロジェクト、苗木、肥料の購入代金
札幌西北RC	350,000円	介護老人ホームの植栽プロジェクト、プランター花苗、肥料の購入代金
札幌手稲RC	170,000円	手稲山植樹プロジェクト、苗木、肥料の購入代金
札幌幌南RC	230,000円	障害者支援施設にテレビ贈呈プロジェクト、液晶テレビ購入代金
小樽RC	180,000円	朝里川に植樹プロジェクト、苗木、肥料の購入代金
小樽銭函RC	160,000円	銭函地区に植樹プロジェクト、苗木、肥料の購入代金
恵庭RC	350,000円	西島松北交流公園植樹プロジェクト、苗木、肥料購入代金
三石RC	320,000円	バス待合ベンチ設置プロジェクト、ベンチ3台購入代金
函館セントラルRC	280,000円	桜法華高齢者センター花壇植樹プロジェクト、花、苗木、肥料購入代金
江差RC	150,000円	江差町内植樹プロジェクト、苗木、肥料購入代金
合計金額		2,440,000円

【財団学友委員会 任期最後の財団学友委員長として

委員長 **齊藤博司**
(千歳セントラルRC)



私も委員長、3年を終えようとしています。そして、次期委員長は奨学生として留学経験ゆたかで、財団学友会を知りつくした菅原秀二氏(札幌大通公園RC)にバトンタッチすることでホッとしております。また、支えて戴いた皆様、本当にありがとうございました。本年度は、財団学友会創立10周年記念事業があった関係で毎月1回のペースで会議を開いており、10回を数えました。また、財団委員会(補助金関係含む)も未来の夢計画のスタートに関するものが多く5回以上の会議でした。そして、米山学友会との交流事業には2回参加しました。その内1回は、米山学友会家族懇親会ではありますが、その時のトピックスとして新郎が米山奨学生の韓国の人で、新婦が財団奨学生の日本人であり、ロータリー関係の留学生同士の間国際結婚でありました。10月15日・16日の小樽地区大会への財団学友の参加助言(10周年記念事業のPR)。2012年2



月11日の財団学友会創立10周年記念行事では、熊澤隆樹ガバナーをはじめ日本ロータリー学友会からの参加を含め90余名の参加者で成功裏に無事終わりました。財団学友委員会として地域のイベントへの参加6回（ローターアクトクラブに出席含む）。また、奨学金委員会・GSE委員会関係へ出席4回でした。私自身の卓話として汗をふきふき新入会員を対象におこないました。財団学友会創立10周年目に私が財団学友委員長としてこの事業に参加できたことは本当にありがたいことです。そして、この1年間のロータリー活動が私にとって、ついやした時間が一番多かったような気がします。感謝…。

【 補助金監督委員会

委員長 **愛須一史**
(札幌はまなすRC)



2011-2012年度の地区補助金申請の審査に携わせていただきました。各クラブがそれぞれの地域の実情に応じた奉仕に取り組んでいることを改めて認識させられると共に、現在の補助金支出の対象が人道的奉仕活動でかつ会員の熱意が伝わってくる内容であることがまだ周知されていないとも感じるところです。ロータリーの補助金のあり方については「未来の夢計画」へ大きく舵を切っていく過程の時期で当委員会の扱う補助金額はかつてよりも限られており、その限定された中でいかに公平に分配していくかは大変悩ましいものです。

申請金額どおりの補助金支出が難しく思われる場合でも、少しでも申請されてきた奉仕活動の支えになってほしいとの視点に立って審査に臨んでいます。

各クラブでバラエティに富んだ活動が行われると、地区ロータリー全体に活気が出てくるものと期待しておりますので、新年度も創意工夫されて補助金を有効活用していただくような計画を立てていただきたいと願っています。1年間どうもありがとうございました。

【 米山記念奨学委員会

委員長 **黒澤勝昭**
(札幌南RC)



2011-2012年度米山記念奨学事業にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

米山記念奨学事業は、①寄附金事業、②米山記念奨学生の受け入れが大きな事業となります。地区の寄附金の総額によって、米山記念奨学生の受け入れ数変動する仕組みになっています。

第2510地区の寄附金事業については全国平均(14,624円)を大きく下回り一人当たりの寄附金は2012年6月末現在10,722円で全国34地区中第25位となっています。

当地区の目標金額は普通寄附4,000円、特別寄附12,000円、合計16,000円ですが、目標額に対して達成率67.01%(全国91.40%)でした。総額も会員数の減少により2000年度3,749人41,477,321円、2009年度2,825人30,263,568円、2010年度2,665人26,776,407円、2011年度2,623人28,125,932円と減額の傾向でしたが、2011年度一人当たり寄附額の平均は前年度より675円上回りました。皆さまのご努力に心

からお礼申し上げます。特に、小樽クラブの劇的な増進に対し厚くお礼申し上げます。

ガバナーの設定した地区目標額16,000円の達成に向けて寄附増進へのご協力をお願いしてまいりましたが、委員長の力量不足のため3年間の在任中一度も目標額を達成することができませんでした。今後とも、米山記念奨学事業の主旨をご理解いただき、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会へのさらなるご支援をお願いいたします。

地区米山記念奨学委員会委員長を拝命し、3年間にわたり地区の全ロータリアンのご支援をいただき何とか任務を終了することができました。本当にありがとうございました。



【 米山学友委員会 地区米山学友委員長を終えて

委員長 **大石春雄**
(札幌はまなすRC)



2009年7月に地区米山委員長としてお世話になり、3年の月日がたってしまいました。その間、伊藤長英理事、ガバナーの皆様、先輩委員長には色々ご指導戴きながら、無事委員長の職責を終えることとなりました。その間、先輩米山学友委員の皆様には至らぬ私を支えて戴き、心より感謝申し上げます。

さて、米山学友委員長は私が4代目ですが、当委員会は、米山学友会の活動を支援する目的で地区に発足したものとっております。当地区内には100名以上の米山学友がおりますが、総会の案内・家族懇親会の案内をしても中々参加してくれません。外国ではタイに4番目の学友会が結成され、活発な活動をしているとお聞きしておりますが、なぜ当地区では参加者が少ないのか。私も1年目にメール・FAX・電話と色々な通信手段を駆使して連絡しましたが、連絡が取れたのは半数にも満たない状況でした。「金の切れ目は縁の切れ目」かと残念な気持ちでいっぱいです。

今年度も、11月15日に行われました米山学友会総会、5月26日に行われました学友会家族懇親会。米山学友は勿論ですが、米山奨学生・ロータリアン・財団学友の皆様の多大なるご協力により盛大に終えることが出来ました。

支えて戴きました皆様に心より御礼申し上げます。私事ではありますが、8年間米山関係の地区委員をさせて戴き、その間、多くのロータリアン、そして米山奨学生・学友との交流が出来たことは、私にとって大きな財産となりました。今年6月には、米山学友グイエン ティ ルイエン（ベトナム出身）さんの結婚式に立ち会えたこと、8月には、米山学友と財団学友の方の結婚式にご招待戴いたこと、まだまだ沢山の良き思い出でいっぱいです。有り難うございました。

今後、米山学友の更なる結束を深めるには、区内クラブの皆様、米山カウンセラー皆様のお力が益々必要になることと思います。1人でも多くの米山学友に声をかけて戴き、学友会行事に出席して戴けるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、地区米山学友会が今後益々発展することを祈念致しますと共に、長い間米山学友会、地区米山学友委員会を支えて下さいました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

【 地区代表幹事の退任にあたって 】

地区代表幹事 **杉江俊太郎**
(小樽RC)



2011-2012年度熊澤隆樹ガバナーの年度も、皆様の地区運営に際しますご支援・ご協力によりまして代表幹事の重責を無事終了することが出来ましたことに心から感謝申し上げます。

私と地区幹事7名と財務委員2名と事務局の佐藤さんの合計10名のスタッフ団で、熊澤ガバナーの地区方針のもと、円滑で有意義な地区運営を目指して努力してきたつもりではありますが、多々至らなかった点につきましてはロータリーの寛容の心でお許しを戴ければ幸いです。

この1年間の中で特記すべきことは、やはり東日本大震災支援事業の実施であります。2011年3月12日は、熊澤年度の始まりでもあるP E T Sの開催日であり、前日の11日午前中から、明日の会議に備えて準備を順調に進めている時に大きな地震が起きました。前代未聞の大地震と大津波の被害をテレビで呆然と見つめる中で、明日の会議はどうすれば…

検討の結果開催を決め、当日は65クラブの会長が寸断された道路を迂回しながらも時間をかけてご参集戴いた姿に、胸が一杯になる思いを致しました。

その東日本大震災支援事業の実施事業を簡単にご報告致します。

支援事業として1)放射線測定器贈呈、2)飯館村車両贈呈、3)いわき海星水産高校の校舍復旧支援、4)福島キッズキャンプ in 北海道、5)福島アンダー18検査・登録移動車両贈呈の5つの事業を、支援金1,716万円とMG及び東日本大震災復興基金日本委員会補助金を利用して実施致しました。(総額5,315万円)

また、各クラブにお願いをした東日本大震災支援金は、目標の1千万円を超える11,080,288円を指定口座にお振込み戴き、佐々木正丞ガバナー年度の支援金20,663,603円と合わせ、総額31,743,891円となりました。

この1年間の出会いを大切に、また役職の貴重な経験を今後のロータリー活動に活かしていく所存ですので、今後ともご指導頂きますようよろしくお願い申し上げます、お礼とさせていただきます。ありがとうございました。





第1グループIMを終えて

第2510地区 第1グループ

ガバナー補佐

山田 圭二

(深川RC)

5月20日(日)4クラブ、会員139名全員登録の下、深川市の「プラザホテル板倉」において第1グループのIMを開催いたしました。

参加会員96名、地区より熊澤隆樹ガバナー、杉江俊太郎地区代表幹事、伊藤保夫地区幹事のご参加を戴き、開催地の来賓として深川市長・議長及び地元報道機関の北空知新聞社社長をお招きし総勢102名での開催となりました。

今回のIM開催に当たっては、深川クラブをホストクラブとし創立に当たってスポンサーし、友好関係を継続している妹背牛クラブさんをコ・ホストクラブとしてIM実行委員会を組織して戴きました。

大西道祥パストガバナー補佐を委員長とし澁谷賢治パスト会長(地区クラブ奉仕委員)を幹事として両クラブ全員が一丸となって取り組んで戴きました。

IMのテーマは、東日本大震災を踏まえ「心はひとつ 全員参加で奉仕を分かちあおう」とし、IMの研修課題を1つは地区目標に掲げる「全員参加の奉仕活動」をテーマとして各クラブから本年度の活動事例発表をして戴きました。

2つは、「ガバナーを囲んで」ロータリーに関する4クラブ会長とのディスカッションを行いました。ガバナーは入会から今日までの経緯を熱く語りました。

親睦交流会は第2510地区最終のIMとして会員相互の親睦は勿論ですが、ガバナーのご慰労を念頭に楽しくちよっと格調高い交流会を企画して戴きました。

さて、「全員参加の奉仕活動」の事例発表は

羽幌クラブが「ビオトープ造成」事業への参加。この事業は河川の切替えに伴う旧河川敷の「生き物と共生する空間」造り事業。

留萌クラブは「るもい呑涛まつり・やん衆あんどん」への参加(自前の行燈所有)と「そらぶちキッズキャンプ」での「蟹釣り」事業。

妹背牛クラブは「カーリング」による青少年育成や新入学児童へ黄色い傘の贈呈等々。

深川クラブは「プレイパーク(子供の冒険広場)」の運営参加と「よろず相談会」の開催。

等々、ユニークな活動が目白押しで紙面の制約から詳細の記載は出来ませんが、何れの事業も単年度事業ではなく、継続事業として取り組まれていて「継続」を先取りした奉仕活動は各クラブの歴史の重さをバックボーンとした事例発表となりました。

親睦交流会は、深川クラブの会員と地元のピアニスト新保 響さんとの日頃の交流があったことから札幌交響楽団のメンバーによる演奏会が実現致しました。

カルテットによる演目は、イングランド民謡「グリーンスリーブス」や「りんご追分」など10曲。最後に全員輪になって「手に手つないで」を生演奏で合唱し全日程を終了し好評を得ました。感謝!感謝!でIMの報告と致します。



タイ洪水義援金支援金報告

地区ロータリー財団委員会

委員 **出村 知佳子**
(札幌北RC)

本年度11月に地区内各クラブにお願い致しましたタイ洪水義援金について、御協力ありがとうございました。

皆様の義援金は現地のロータリークラブを通じまして、被害者の皆様の元に届けられていますので、ここにご報告をさせて戴きます。

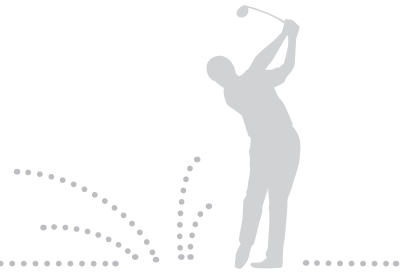
皆様の温かい御支援をありがとうございました。

地区	送金額 (BATH)	支 援 概 要
3340	398,337.50	支援物資、水、毛布、保存食及び被害2校への水事業
3360	139,418.12	アユタヤ学校復旧支援、被害エリアへのチェックダム建設
3350	209,775.00	支援物資及び被害地区学校でも水事業 (MG利用)





日本ロータリー 親睦ゴルフ北海道大会



大会実行委員長

菊地 弘嗣

(札幌東RC)

第22回日本ロータリー親睦ゴルフ(J G F R)北海道大会が、6月25日小樽カントリー倶楽部において開催された。

曇り空の中、OUT・INそれぞれスタートしていった。天候もトップスタート後2時間程で手稲山頂上に掛かっていた雲も晴れ、太陽のもと無事全組ホールアウトができた。

各組アテスト終了後、2階の会場に移動をして、食事をとりながらそれぞれの組テーブルで親睦を深めつつ、成績の発表を待っていた。

山口実行委員(札幌東RC)の司会で表彰式が始まった。熊澤隆樹ガバナーのご挨拶、熊澤ガバナーのプレゼンターにより表彰が行われた。

参加者数は北は網走、南は沖縄の宜野湾から、シニアの部・47名、一般の部・45名、レディースの部・15名、役員(札幌東RC・札幌西RC)の部14名、総勢121名だった。

各クラスの優勝者と成績は次のようになった。シニアの部・南方克己さん(和歌山南RC)・グロス82・ネット71.2、一般の部・下山隆一郎さん(三田南RC)・グロス85・ネット70.6、レディースの部・寺本説子さん(橋本紀ノ川RC)・グロス94・ネット76.0だった。表彰後、東海那珂RCの清水さんから、11月ごろに第1回J G F R茨木大会を行うと案内があった。

第23回J G F R北海道大会での再会を願い閉会となった。



シニアの部・南方克己さん
(和歌山南RC)



一般の部・下山隆一郎さん
(三田南RC)



レディースの部・寺本説子さん
(橋本紀ノ川RC)



ローターアクト 第39回地区協議会



2012年2月18日（土）に小樽マリンヒルホテルにてローターアクト地区協議会を開催致しました。今回、細川ガバナーエレクト・谷内第6グループガバナー補佐・伊藤地区幹事・柳新世代委員長をはじめとする多数のご来賓の皆様、ロータリアンの皆様、ローターアクトの皆様の参加により無事終了致しました。熊澤ガバナーが小樽ロータリークラブということもあり開催地を初めて小樽で行いました。小樽ロータリークラブの皆様にもご出席いただきました。誠にありがとうございました。



テーマは、結び場～K I・Z U・N A～ということで地域と地域・人と人・など一つに結ぶことができればという思いも込めてこのテーマにしました。



メインプログラムは2011年10月8日～10日まで宮城県・岩手県に行き、東日本大震災の被災地を訪問した報告とローターアクトの備品当てクイズ・もし北海道が被災したらあなたはローターアクトとして何ができますかをテーマに各グループで話し合いをしてもらい発表してもらいました。備えあれば憂いなし！自分の身は自分で守ること。ハザードマップを作ったり、ネットワークを活用してまわりの人のことも考える。などいろいろな意見がでましたが、今回の震災を風化させないよう少しでも私たちにできることをみつけ、そしてローターアクトの絆を通して継続できる活動を見つけたいです。



そのあとは懇親会で楽しくゲームをして親睦を深めました。



提唱クラブ：札幌幌南ロータリークラブ
ホストクラブ：札幌幌南ローターアクトクラブ



長万部RC報告

長万部町民花見会

長万部ロータリークラブ

幹事 赤塚 章

道南で最も遅く花見が楽しめる長万部町の町民花見会が、5月27日に長万部公園で行われ、当クラブも参加しました。満開の八重桜の下で家族共々、今人気のゆるキャラのまんべくんと共に焼肉の煙が立ちこめる中、楽しく宴も行い移動例会も行いました。



2013年規定審議会 立法案第305号(地区大会決議第12号)の撤回について

千歳ロータリークラブ

2011-2012年度会長 今村 静男

本年度地区大会において「決議第12号：〈制定案〉クラブの会員身分の中に終身会員を新設する件」として賛成多数により決議されました案件について、地区よりRⅠ規定審議会に送達された結果、「2013年規定審議会に提出する立法案第305号」として受理されました。

この度、RⅠ定款細則委員会において審議の結果、暫定的ではあるもののRⅠ細則7.035.2に基づく「欠陥ある案件」との決定を受けたところです。

提案クラブである当クラブでは、RⅠ定款細則委員会の審議決定を真摯に受け止めて、慎重・審議を重ねました結果、

- (1) 一部文言の修正は可能であるが、RⅠ細則7.037.2(b)に基づく組織規定の関係箇所をすべて改正のための作業及び手続きに相当の時間を要する。
- (2) RⅠ定款細則委員会により「欠陥ある案件」として決定通知を本年5月14日に電子メールで受理し、修正案提出期限まで2週間足らずでは地区の2013年規定審議会代表議員に依頼して、「欠陥のない立法案」に修正し、5月31日までシカゴの事務総長に必着させることは物理的に不可能。

と判断により「2013年規定審議会：立法案第305号は撤回する。」と決定したところです。

なお、ロータリアンの高齢化が進む中、会員の経済的負担の軽減と退会防止等の視点から将来を見据えて、周囲の要望があれば、今後も検討を重ね、可能であれば2016年の規定審議会に再提出のための慎重な協議が必要と考えています。

以上



米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

◆米山功労者

小樽 R C 星野 昭雄 会員 (1 回) 5 月 16 日
 小樽 R C 小野 晃裕 会員 (1 回) 5 月 16 日
 小樽 R C 佐藤 勝次 会員 (1 回) 5 月 16 日
 小樽 R C 金久保兵士郎 会員 (2 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 上浦 庸司 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 三山 雄弘 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 末永 通 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 高田 義人 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 谷内 馨一 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 津田 哲哉 会員 (1 回) 5 月 23 日
 小樽 R C 渋谷 繁男 会員 (1 回) 5 月 24 日
 小樽 R C 清水 雅章 会員 (1 回) 5 月 30 日
 滝川 R C 米倉 慎一 会員 (1 回) 6 月 5 日
 江別 R C 奥野 一嘉 会員 (1 回) 6 月 1 日
 岩見沢 R C 大屋 均 会員 (6 回) 6 月 29 日

札幌モーニング R C 田上 建夫 会員 (1 回) 6 月 19 日
 札幌モーニング R C 賀来 亨 会員 (1 回) 6 月 19 日
 札幌モーニング R C 井野 智 会員 (1 回) 6 月 19 日
 札幌モーニング R C 宮澤 功行 会員 (4 回) 6 月 19 日
 札幌モーニング R C 坂本 勝彦 会員 (7 回) 6 月 19 日
 札幌幌南 R C 大作 佳範 会員 (1 回) 6 月 28 日
 小樽 R C 海老名 健 会員 (1 回) 6 月 13 日
 函館五稜郭 R C 酒井 正人 会員 (14 回) 6 月 13 日

◆米山功労クラブ

小樽 R C (10 回) 5 月 25 日

◆米山功労法人

札幌モーニング R C 医療法人社団大蔵会 札幌佐藤病院
6 月 28 日

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

◆マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

当別 R C 竹田 和雄 会員 (2 回) 6 月 28 日
 当別 R C 河村 佳男 会員 (2 回) 6 月 28 日
 札幌モーニング R C 大熊 慧教 会員 (3 回) 6 月 21 日
 札幌幌南 R C 田中 賢一 会員 (2 回) 6 月 29 日
 長沼 R C 清水 慧子 会員 (4 回) 6 月 19 日
 苫小牧北 R C 高橋 寛 会員 (3 回) 6 月 27 日
 苫小牧北 R C 山本 雅昭 会員 (3 回) 6 月 27 日
 苫小牧北 R C 高橋 康則 会員 (2 回) 6 月 27 日
 苫小牧北 R C 朝倉 瑞昌 会員 (1 回) 6 月 27 日

◆ポール・ハリス・フェロー

栗山 R C 今井 正信 会員 6 月 26 日
 札幌幌南 R C 中川 信喜 会員 6 月 29 日
 静内 R C 紺野 光彦 会員 6 月 22 日
 伊達 R C 柴木 恭一 会員 6 月 5 日
 苫小牧北 R C 豊田 健一 会員 6 月 27 日
 苫小牧北 R C 伊藤 恭子 会員 6 月 27 日



新会員の紹介

(敬称略)



深川RC
木村 喜芳
1月10日入会
歯科医



伊達RC
林 正樹
2月7日入会
弁護士



えりもRC
大西 正紀
4月5日入会
市町村役場公務員



岩内RC
佐藤 隆久
5月1日入会
建設業



岩内RC
加藤 三博
5月1日入会
写真器材販売



恵庭RC
天野 仁
5月1日入会
酒精飲料製造業



伊達RC
齋藤 誠
5月8日入会
司法書士



岩見沢RC
富松 正巳
5月24日入会
生命保険業



苫小牧北RC
山崎 肇
6月30日入会
行政書士



苫小牧北RC
鈴木 傑
6月30日入会
幼稚園

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに
心からご冥福をお祈り致します



成田寛志 会員 (登別RC)

2012年4月22日逝去(享年58歳)

【ロータリー歴】

2010年6月30日 入会



福原義晃 会員 (静内RC)

2012年5月24日逝去(享年64歳)

【ロータリー歴】

1987年1月 入会
2006~07年度 幹事

【表彰関係】

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



木村照男 会員 (千歳RC)

2012年6月16日逝去(享年74歳)

【ロータリー歴】

1982年8月 入会
1991~92年度 幹事
1996~97年度 会長
2002~03年度 地区広報委員会 委員
2003~04年度 地区幹事
2006~07年度 第7グループ担当
ガバナー補佐

【表彰関係】

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(2回目)



横山幸司 会員 (苫小牧RC)

2012年6月26日逝去(享年71歳)

【ロータリー歴】

1982年8月13日 入会
1984~85年度 プログラム委員長
1986~87年度 SAA
1987~88年度 社会奉仕委員長
1989~90年度 幹事
1994~95年度 職業奉仕委員長

【表彰関係】

ポール・ハリス・フェロー



栗原弘治 会員 (伊達RC)

2012年6月27日逝去(享年79歳)

【ロータリー歴】

1974年9月24日 入会
1980~81年度 幹事
1997~98年度 会長

【表彰関係】

ポール・ハリス・フェロー
米山功労者



出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2011.7.1	2012.5.31	増 減	内女性	
1	深 川	4	33	37	4	2	88.00
	羽 幌	4	50	48	-2	2	84.92
	妹 背 牛	4	9	10	1	0	95.00
	留 萌	4	44	43	-1	3	83.55
	小 計		136	138	2	7	87.87
2	赤 平	4	29	28	-1	0	71.30
	芦 別	4	37	38	1	1	76.43
	砂 川	5	48	49	1	0	96.14
	滝 川	4	84	86	2	2	69.00
	小 計		198	201	3	3	78.22
3	美 唄	4	34	34	0	0	72.12
	江 別	4	29	35	6	2	77.85
	江 別 西	4	25	27	2	3	90.70
	岩 見 沢	4	81	81	0	0	92.15
	岩 見 沢 東	4	23	22	-1	4	85.11
	栗 沢	4	23	23	0	1	97.85
	栗 山	4	27	25	-2	2	98.91
	当 別	4	28	27	-1	1	85.56
	小 計		270	274	4	13	87.53
4	札 幌	4	115	120	5	0	96.93
	札幌あけぼの	3	15	16	1	2	100.00
	札幌はまなす	4	18	18	0	3	84.72
	札 幌 北	4	39	36	-3	4	87.50
	札幌モーニング	4	47	46	-1	0	68.40
	札 幌 西	4	53	52	-1	5	89.87
	札 幌 西 北	3	31	33	2	4	89.60
	札 幌 手 稲	3	35	33	-2	3	87.05
	小 計		353	354	1	21	88.01
5	札 幌 東	3	110	120	10	0	98.53
	札 幌 清 田	4	19	20	1	6	100.00
	札 幌 幌 南	3	51	51	0	0	100.00
	札幌真駒内	4	26	26	0	3	100.00
	札 幌 南	4	77	82	5	0	99.01
	札幌大通公園	3	8	13	5	2	48.71
	札幌セントラル	4	9	7	-2	3	82.90
	新 札 幌	4	28	27	-1	3	73.49
小 計		328	346	18	17	87.83	
6	岩 内	3	20	22	2	0	89.39
	倶 知 安	4	39	38	-1	6	84.00
	小 樽	3	66	71	5	0	88.38
	小 樽 南	3	72	71	-1	2	94.33
	小 樽 銭 函	4	20	19	-1	2	90.79
	蘭 越	4	8	10	2	0	92.50
	余 市	5	42	43	1	4	82.30
	小 計		267	274	7	14	88.81

5月出席率・
会員増減数

クラブ数	72クラブ
期首会員数	2,573人
当月末会員数(女性)	2,640人(120人)
増加会員数	67人
当月平均出席率	84.94%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2011.7.1	2012.5.31	増 減	内女性	
7	千 歳	4	54	54	0	3	76.90
	千歳セントラル	4	32	35	3	2	83.08
	恵 庭	4	47	44	-3	3	82.05
	北 広 島	3	12	16	4	0	85.42
	長 沼	3	20	19	-1	3	87.70
	由 仁	4	9	9	0	1	66.67
小 計		174	177	3	12	80.30	
8	え り も	3	22	26	4	1	88.46
	三 石	3	15	15	0	2	66.60
	様 似	4	23	24	1	1	78.80
	静 内	4	69	73	4	0	74.31
	浦 河	4	34	36	2	2	63.19
	小 計		163	174	11	6	74.27
9	伊 達	4	56	56	0	0	80.35
	室 蘭	4	37	41	4	0	94.90
	室 蘭 東	4	37	39	2	0	87.80
	室 蘭 北	4	38	34	-4	2	100.00
	登 別	4	32	31	-1	1	83.87
	洞 爺 湖	4	10	10	0	0	89.30
	小 計		210	211	1	3	89.37
10	函 館	4	77	82	5	0	81.44
	函 館 亀 田	3	39	39	0	4	95.47
	森	4	40	44	4	0	75.40
	七 飯	4	14	15	1	0	68.63
	長 万 部	4	7	8	1	0	87.50
函館セントラル	4	29	30	1	2	66.67	
小 計		206	218	12	6	79.19	
11	江 差	4	11	10	-1	1	95.00
	函館五稜郭	3	43	40	-3	0	92.14
	函 館 東	4	45	46	1	6	83.80
	函 館 北	4	23	25	2	0	94.92
	北 斗	3	17	15	-2	0	83.00
	松 前	3	3	3	0	0	66.00
小 計		142	139	-3	7	85.81	
12	白 老	4	28	29	1	2	78.50
	苫 小 牧	3	48	51	3	2	81.35
	苫 小 牧 東	4	26	28	2	4	91.97
	苫 小 牧 北	4	24	26	2	3	91.83
	小 計		126	134	8	11	85.91
合 計		2,573	2,640	67	120	84.94	



出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2011.7.1	2012.6.30	増減	内女性	
1	深川	4	33	37	4	2	83.68
	羽幌	4	50	48	-2	2	78.34
	妹背牛	3	9	10	1	0	86.60
	留萌	4	44	43	-1	3	82.25
	小計		136	138	2	7	82.72
2	赤平	3	29	28	-1	0	82.30
	芦別	4	37	37	0	1	73.57
	砂川	3	48	47	-1	0	97.82
	滝川	2	84	86	2	2	73.00
	小計		198	198	0	3	81.67
3	美唄	4	34	34	0	0	86.05
	江別	3	29	34	5	2	89.52
	江別西	4	25	26	1	3	94.40
	岩見沢	4	81	80	-1	0	91.25
	岩見沢東	4	23	21	-2	3	80.24
	栗沢	4	23	23	0	1	97.80
	栗山	4	27	23	-4	2	100.00
	当別	4	28	27	-1	1	88.73
	小計		270	268	-2	12	91.00
4	札幌	4	115	110	-5	0	97.98
	札幌あけぼの	5	15	15	0	2	100.00
	札幌はまなす	4	18	17	-1	3	84.72
	札幌北	4	39	32	-7	4	85.42
	札幌モーニング	4	47	44	-3	0	72.79
	札幌西	4	53	47	-6	5	90.35
	札幌西北	4	31	33	2	4	87.90
	札幌手稲	5	35	31	-4	3	89.84
	小計		353	329	-24	21	88.63
5	札幌東	4	110	121	11	0	97.77
	札幌清田	4	19	20	1	6	100.00
	札幌幌南	5	51	50	-1	0	98.37
	札幌真駒内	4	26	23	-3	3	100.00
	札幌南	4	77	80	3	0	99.39
	札幌大通公園	4	8	13	5	2	63.45
	札幌セントラル	4	9	7	-2	3	75.00
	新札幌	4	28	27	-1	3	70.27
小計		328	341	13	17	88.03	
6	岩内	4	20	22	2	0	78.75
	倶知安	4	39	38	-1	6	78.00
	小樽	4	66	69	3	0	89.02
	小樽南	4	72	72	0	2	92.06
	小樽銭函	4	20	20	0	2	87.01
	蘭越	4	8	10	2	0	95.00
	余市	4	42	43	1	4	91.30
	小計		267	274	7	14	87.31

6月出席率・
会員増減数

クラブ数	72クラブ
期首会員数	2,573人
当月末会員数(女性)	2,573人(117人)
増加会員数	0人
当月平均出席率	85.37%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2011.7.1	2012.6.30	増減	内女性	
7	千歳	4	54	49	-5	3	82.70
	千歳セントラル	4	32	33	1	2	81.56
	恵庭	4	47	42	-5	3	83.98
	北広島	4	12	16	4	0	90.63
	長沼	4	20	19	-1	3	91.60
	由仁	4	9	9	0	1	86.11
	小計		174	168	-6	12	86.10
8	えりも	4	22	26	4	1	83.65
	三石	3	15	15	0	2	62.20
	様似	5	23	24	1	1	73.50
	静内	4	69	73	4	0	72.94
	浦河	4	34	34	0	1	56.25
	小計		163	172	9	5	69.71
	9	伊達	4	56	54	-2	0
室蘭		4	37	41	4	0	87.10
室蘭東		4	37	38	1	0	87.80
室蘭北		4	38	33	-5	2	100.00
登別		4	32	31	-1	1	83.87
洞爺湖		3	10	9	-1	0	76.60
小計			210	206	-4	3	86.45
10	函館	4	77	79	2	0	82.00
	函館亀田	4	39	39	0	4	92.60
	森	4	40	44	4	0	75.50
	七飯	4	14	15	1	0	74.95
	長万部	4	7	8	1	0	90.60
	函館セントラル	4	29	28	-1	2	72.42
小計		206	213	7	6	81.35	
11	江差	4	11	10	-1	1	100.00
	函館五稜郭	5	43	39	-4	0	89.66
	函館東	4	45	43	-2	6	78.81
	函館北	4	23	25	2	0	91.67
	北斗	5	17	15	-2	0	75.00
	松前	4	3	3	0	0	66.00
小計		142	135	-7	7	83.52	
12	白老	4	28	28	0	1	82.00
	苫小牧	5	48	47	-1	2	90.05
	苫小牧東	4	26	28	2	4	94.65
	苫小牧北	4	24	28	4	3	97.00
	小計		126	131	5	10	90.93
合計		2,573	2,573	0	117	85.37	

金融資料館（日本銀行旧小樽支店）

一年間ガバナー月信の表紙に小生のスケッチを使ってくださり、大変有難う御座います。深く感謝申し上げます。

このたびの金融資料館の絵はこれまでのスケッチとはちょっと違います。

色彩の中で建物がどういう表情を出してくれるだろうかを試してみました。

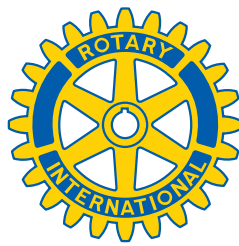
日本銀行旧小樽支店の建物は、赤レンガで有名な東京駅の設計者・辰野金吾とその弟子である長野宇平治らが設計し、1912(明治45)年7月に完成しました。建物は外観にはルネッサンス様式を取り入れ、屋根には5つのドームを配し、外壁はレンガの表面にモルタルを塗り、石造り風に仕上げられています。

建物の構造はレンガ造りの建築技術に鉄骨やコンクリートなど次代の主役となる技術を取り入れています。

小樽ロータリークラブ会長 金久保 兵士郎 作 *かほしろう*



表紙絵：私の残したい小樽シリーズ
「金融資料館(日本銀行旧小樽支店)」 HEISHIRO.K



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

2011—2012

GOVERNOR

TAKAKI KUMAZAWA